

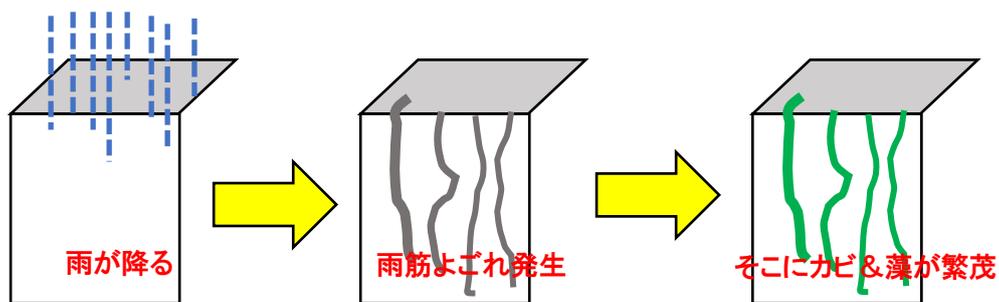
## 外壁の雨筋&カビ・藻防止光触媒コーティングNFE2

### 外壁の雨筋&カビ・藻の発生環境とその対策

外壁でも大きい天端があり軒樋のない部位は降雨の流れ落ちる量が多くなりますから雨筋が出やすくなります。とくに空中梁がその代表的な部位ですね、この部位は例外なく雨筋とカビ・藻の発生に悩んでおられます。

とくに顕著な発生環境は

- A. 降雨が集中的に流れやすい構造の外壁
- B. 加えて湿気が滞留して湿度が高いまま続く



親水性の乏しい表面では降雨の水道(みずみち)は集中するので雨筋ができやすい傾向が顕著です。雨筋の汚れは硝酸塩等の植物の栄養源が豊富なのでカビや藻の苗床になります。



雨筋の抑止は光触媒の超親水性がもっとも得意とする分野で、煤煙汚れの付着を防ぐセルフクリーニング機能については光触媒にまさる塗料は存在しません。YouTube動画でもアップしておりますのでぜひご覧ください。



見落とされがちですが、水平な天端の防水面とセットで光触媒施工することが雨筋抑止にとくに有効です。

# ChemicalTechnology

この画像のような空中梁こそは、典型的な雨筋汚れの上に発生したカビですので市空中梁のような、ウレタン防水の天端と微弾性塗布の壁面が渾然とした現場でも、見境なく光触媒が施工できるNFE2は、このような課題の迅速な解決には最適の光触媒コーティング剤であるといえます。（現実の施工現場作業風景を右のQRコードにより動画でご覧になれます）



## 最近の施工例ご紹介

大阪府の高級住宅地で名高い箕面市の「クレアコート箕面」は2020年10月に大規模改修を迎えましたが、それまで空中梁の多いデザイナーズ設計であり加えて北面が山手で竹藪であることも原因で随所に発生する雨筋とクロカビに悩まされてきました。

（右画像は改修前 2020年9月）

この経緯でNFE2が最終仕上げに採用されましたが2年経過の2022年11月でもまったく雨筋やそれに付随するクロカビの発生は見られておりません。

機能を十分に果たしているものと高いご評価を受けています。



お問い合わせは(株)ケミカル・テクノロジー代理店の